

びわ地域づくりだより

68号

令和八年一月一日号
発行者 びわ地域づくり協議会

～年頭所感～

びわ地域づくり協議会

会長 伊藤雅明

新年明けましておめでとうございます。

昨年末には、びわ地域の出身で大阪大学栄誉教授の坂口志文先生が、免疫系が身体を傷つけることを防ぐ末梢免疫寛容に関する画期的な発見により、ノーベル生理学・医学賞を受賞されました。

この発見は、糖尿病やアレルギー、がんなどの新しい治療開発への道を開く画期的な研究となり、一時期は「免疫を抑える細胞は存在しない」といった風潮の中においても、自身の信念を貫き、不遇の時代も乗り越えて研究を続けてこられた上での輝かしい成果となりました。

令和五年秋に開催されたびわ南小学校での講演で「今も、人類とウイルスの闘いは続いており、私たちは更なる百五十年後の病気が治る社会の実現に向けて、研究に勤しんでいます。それが、研究者としての私の使命であり、人類の平和と幸せのために役に立ちたいと願っています。皆さんも夢を持ち、その夢

に向って先ず運動で身体を鍛え、勉強して頭を鍛え、社会の役に立つ大人になって下さい。」と、子どもたちにエールを送られました。ノーベル賞の受賞は「夢の実現は努力と学びの先にある」ことを子どもたちに実感させてくれる大いなる励ましとなり、この度の受賞で、夢は子どもたちの目標へと変わりました。

びわ地協では、昨年十一月八日(土)に昨年度まで二日間に亘って開催していた「ふるさと文化祭」を「びわっ子フェスティバル」に一新し、多くの皆様のご協力により開催することが出来ました。

この地域に生まれ、この地域で育った子どもたちが地域に誇りや愛着を抱くことを願い、また今後の健やかな成長を願ってのイベントとなりました。

まだ産声を上げたばかりの催しですので至らないところも散見されたかと存じますが、温かく見守っていただき、ご参加ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。改善に向けて更なる努力精進してまいりたいと存じます。

一方で、この地域は、様々な課題も抱えてい

ます。「買い物支援事業」においては、直面する諸課題を解決すべく、関係者による協議や自治会長会議などを重ね、きめ細やかで持続可能なしくみを追い求めてきました。

また、南北両小学生を対象として毎年交互に実施されてきた「環境学習」のタブノキ再生事業を見直し、中学校のご理解とご協力のもと、一年生を対象とした「竹生島日本遺産学習」に切り替えて、昨年度に続き今年度も実施することができました。

このことで、びわ地域の子どもたち同学年の全員が切れ目無く公平に「ふるさとびわ」について学習する機会が創出でき、将来の地域への愛着や誇りに繋がるものと期待するところです。

びわ地協では、今年の干支である「午」に因んで「明るく活発で行動力があり、決断力と実行力に富む年」にしてまいりたいと存じますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます、年頭のご挨拶と致します。

発行：びわ地域づくり協議会（びわまちづくりセンター内 TEL:0749-72-4300）